

宮崎における地域ジャーナリズムの役割 ——新聞読者意識調査の分析を中心に——

峰 尾 一 路

〔はじめに〕

近年、ジャーナリズムの研究領域はますます広範囲に及び、研究対象も研究内容も多岐にわたる。ジャーナリズム研究は①ジャーナリズムの歴史ならびに比較研究②ジャーナリズムの機能と役割の分析③ジャーナリズムと社会との関係論、に大別される。いずれにせよ時々刻々と「生きている社会現象」の本質を的確にとらえ、鋭い批判精神をもって問題の所在と消長を冷徹・公正に突き止め、問題解決の道を模索し、社会の発展に寄与することがジャーナリズム本来の目的である。時代の動きや人間関係が複雑となり、社会や文化の状況が絶えず変貌を繰り返し、一方でさまざまなシステムの世界化が進展するなかで、現代ジャーナリズムの役割もまた多様化し、責務も大きくなっている。やがてマルチメディア時代が到来して媒体がいかなる形に変化しようとも、その比重は増大していくに違いない。価値観が衝突し合い、社会が激しく流動し、混迷が深まれば深まるほど、正しい状況把握と分析、問題解決に必要な情報、向かうべき指針への示唆を求めるニーズは高まる。

好むと好まざるとにかかわらずジャーナリズムは、社会や個人あるいは国家の命運にも影響を与えるほどの存在になっている。世論形成や時代風潮、社会意識などがマスコミによって誘導され、創り出され、拡大再生産されていく数々の事例がそれを物語る。新聞やテレビ等のマスコミが「第4の権力」と言われるゆえんでもある。現代ジャーナリズムの責任は重い。常に厳しい批判にさらされ、厳重な自己検証が求められて当然である。

本研究はジャーナリズムが直面する状況を踏まえつつ、とりわけ地域社会との関係を明らかにする「地域ジャーナリズム」(Local Journalism)の可能性を模索することを目的とした。地域ジャーナリズムの分野は、国際ジャーナリズムあるいは全国ジャーナリズムといった先進的領域と比べ未開拓の分野であり、地域性という特殊な条件ゆえに普遍的研究の対象として捉え難い面もあった。しかし、今や「地域づくり」は21世紀の政治・経済・社会・文化の最大の課題となりつつある。生活の原点、心のよりどころ、福祉の現場、国際化の出発点、文化創造の場としての地域の在り方が問われている。固有の文化や特性を存分に発揮させながら時代の変化やグローバルゼーションという普遍的な命題にも対応できる「たくましさ」が、これからの地域には求められる。地域の状況を科学的に把握し、さまざまな勢力との緊張関係を保ち、多様な価値を共存させるだけでなく共鳴させる「統合の可能性」を追求できるのは一体誰だろうか。その地平を拓く橋頭堡の一角を地域ジャーナリズムが担っている、と断じるのは言い過ぎであろうか。

折しも、中央集権的構造を抜本から見直し、地方に主権を回復させる「分権の動き」が政治・行政の日程として脚光を浴びつつある。地方自治の本旨に照らせば、至極当然な文脈と言えよう。だが建前とはともかく、実際に長年にわたって中央集権的体質に染まってきたわが国の地方制度が、スムーズに方向転換できるとは信じ難い。さまざまな既得権益をめぐる思惑や縦割りの官僚制度などが大きな障害となることも予想される。また地方の側にも分権の「受け皿」としての準備や能力が整っていない事情もある。こうした障害を克服し、地域民主主義と市民社会を育てて地方自治を確立させ、地域文化の創造と成熟を促し、物心ともに豊かな地域づくりを推進させるには、明確な地域哲学と地域戦略、将来ビジョンの構築が必要だ。さらには人材育成、ノウハウやソフト開発など、夢を実現させる能力や力量を備えなければならない。

[地域ジャーナリズム] (Local Journalism) に、こうした地域づくりのフロンティアとしての役割が果たせるか否かで存在理由も明らかになる。地域の潜在能力を発掘し、人的資源を含む「地域の力」を結集させる「触媒として機能」が期待される。その担保として、地域社会への影響力の強さ、市民からの信頼の深さ、期待の大きさなどが問われている。地域ジャーナリズムには、地域に対する「3つの目」がバランスよく備わっていることが望ましい。「厳しい目」「優しい目」「育む目」である。政治・行政など権力に対する批判精神と監視能力。人権に対する鋭敏な感覚と対応。不正や不条理へのチェック。批判や告発を一過性に終わらせず問題解決型の報道に昇華させているか。生活者の立場からの報道姿勢は守られているか。独善と偏狭な地域エゴが克服できるか。インター・ナショナルからインター・ローカルの時代にふさわしく全国・世界に開かれた地域づくりへの貢献は十分か。たとえ萌芽であっても事象の将来性を正しく評価できるか。地域文化を創造・育成する気風と品格が磨かれているか。地域を愛する情熱が市民に伝わっているか。必要に応じて建設的な提言が発信できるか。これらの観点から「宮崎における地域ジャーナリズムの役割」を検討する基礎資料を得るために、新聞に対する市民意識調査を行った。本稿ではその一部のデータをもとに調査結果の概要を報告する。

[調査の目的]

この調査は宮崎地域におけるマスコミの在り方、とくに宮崎の発展や市民生活や文化の向上に貢献できる「地域ジャーナリズムの役割」についての基礎資料を得るために行った。とくに今回の研究は、新聞読者の意識調査を中心に行われた。収集されたデータを研究目的以外に用いたり、調査対象者に関する資料がそのまま単独で公開されたり、外部に発表されないよう留意した。

[調査の対象と方法]

宮崎市(県)に居住する高校生以上の市民から無作為抽出した500人を対象とした。方法は調査員(宮崎公立大学学生)の調査票=アンケート用紙手渡しによる留め置き法で行った。回収は手渡しの際に添付した返信用封筒に郵送を依頼(一部は調査員が直接回収)した。1995年度・宮崎学術振興財団の助成(70万円)を受けて実施した。調査は1994年6月から検討を開始、準備、アンケート作成にかかり、配布は同年11月から1995年2月までかかった。その後、データ集計、分析等を1995年9月まで行った。

調査期間	1994年11月～1995年2月(当初の終了予定は1994年12月)
回収数	423(84.6%)

第1章 [対象者フェースシート]

問1 性別

1 男性	47.9%	2 女性	52.1%
------	-------	------	-------

問2 年齢

1 10代後半	15.2%	2 20代前半	17.6%	3 20代後半	9.8%
4 30代	18.6%	5 40代	20.3%	6 50代	10.5%
7 60代	6.6%	8 70代	0.9%	9 80歳以上	0.2%

この男女比ならびに年齢構成は、必ずしも宮崎の人口構成比とは一致するものではない。しかし、10代後半を含め20代(27.4%)を中心に若年層、30-40代の壮・中年層(38.9%)の地域ジャーナリズムに対する意識が集中的に得られた。これを本調査の特徴としたい。

問3 職業構成

1 会社員（従業員）	12.7%	2 会社員（専門職）	7.4%	3 自由業・管理職	2.0%
4 商工自営業	2.1%	5 主婦	11.0%	6 教職員	3.4%
7 公務員	23.8%	8 農水産業	1.9%	9 学生	26.7%
10 無職	4.4%	11 その他	4.4%		

調査対象者の職業分布もまた偏りが見受けられるが、サンプル抽出の際、職業分布についての考慮はしなかったことによる結果である。にもかかわらず、各属性ごとに有意なデータが得られている。しかし、今回の報告は職業別による詳細な分析は割愛し後日の機会に譲りたい。

問4 宮崎市（宮崎県内）での居住年数

1 1年未満	8.1%	2 1～5年未満	8.8%	3 5～10年未満	4.2%
4 10～20年未満	24.8%	5 20～30年未満	22.8%	6 30年以上	30.1%

この構成を見る限り、居住年数20～30年以上の層が半数以上の52.9%に及び、1年未満・5年未満を含む10年以下は21.1%である。かなり都市化が進展して「流動」の状況が現れているにもかかわらず、まだ宮崎においては「定着」の傾向は根強い。このことは次の問5の購読紙調査で地元紙「宮崎日日新聞」が首位を占めていることとも照応する。

第2章 [新聞、テレビ、ラジオとのかかわり]

問5 毎日購読している新聞＝日刊紙（複数回答）

1 宮崎日日新聞	61.3%	2 朝日新聞	24.8%
3 読売新聞	11.8%	4 毎日新聞	7.1%
5 日本経済新聞	6.4%	6 西日本新聞	2.2%
7 その他	6.4%	8 購読紙なし	4.9%

地元紙「宮崎日日新聞」が群を抜いている。ちなみに宮崎日日新聞の宮崎県内における占有率は60.13%で公称発行部数は22万6884部（1995年10月）である。宮崎県の新聞普及率は全国的に下位にあるが、やはり宮崎日日新聞は郷土紙として深く根を下ろしていることを物語る。ちなみに九州各県の新聞世帯普及率は次の通りである。福岡95.4%、佐賀109.2%、長崎86.4%、熊本88.1%、大分95.6%、宮崎82.6%、鹿児島70.0%（1994年ABC部数と住民基本台帳による）。

問6 1日平均の新聞閲読時間

1 10分程度	16.2%	2 20分程度	22.8%	3 30分程度	19.6%
4 30分～1時間程度	23.3%	5 1～2時間程度	10.1%	6 2～3時間程度	1.5%
7 3時間以上	0.3%	8 全く読まない%	5.9%		

日本新聞協会が1995年6月に実施した[第11回全国新聞信頼度調査]によると、新聞を「毎日読む」人は全体で76.2%、「時々読む」のが18.9%、「全く読まない」が4.9%となっている。一方、閲読時間は全体平均で41.1分、男性47.3分、女性34.4分で男性が12.9分長く読んでいる。このデータでみる宮崎人の平均新聞閲読時間は34.4分（男性39.9分・女性28.7分）と計算され、やや接触時間は少ない。

問7 1日のテレビ・ラジオ視聴時間

[テレビ]

1 30分以下	6.4%	2 30分～1時間程度	17.4%	3 1～2時間程度	37.5%
4 2～3時間程度	20.8%	5 3時間以上	16.4%	6 テレビは見ない	1.2%

[第11回全国新聞信頼度調査]と比較すると、全国平均のテレビ視聴時間は163.5分(男性159.3分・女性168.0分)で、この2年間で8.7分増加している。一方、新聞閲読時間は横ばいである。なお宮崎人のテレビ視聴時間は平均104.2分(男性101.7分・女性112.2分)である。やはり放送チャンネルが少ないことが影響しているのだろうか。なお2～3時間の接触層を新聞とテレビで比較すると、約1.4倍もの大差がみられる。

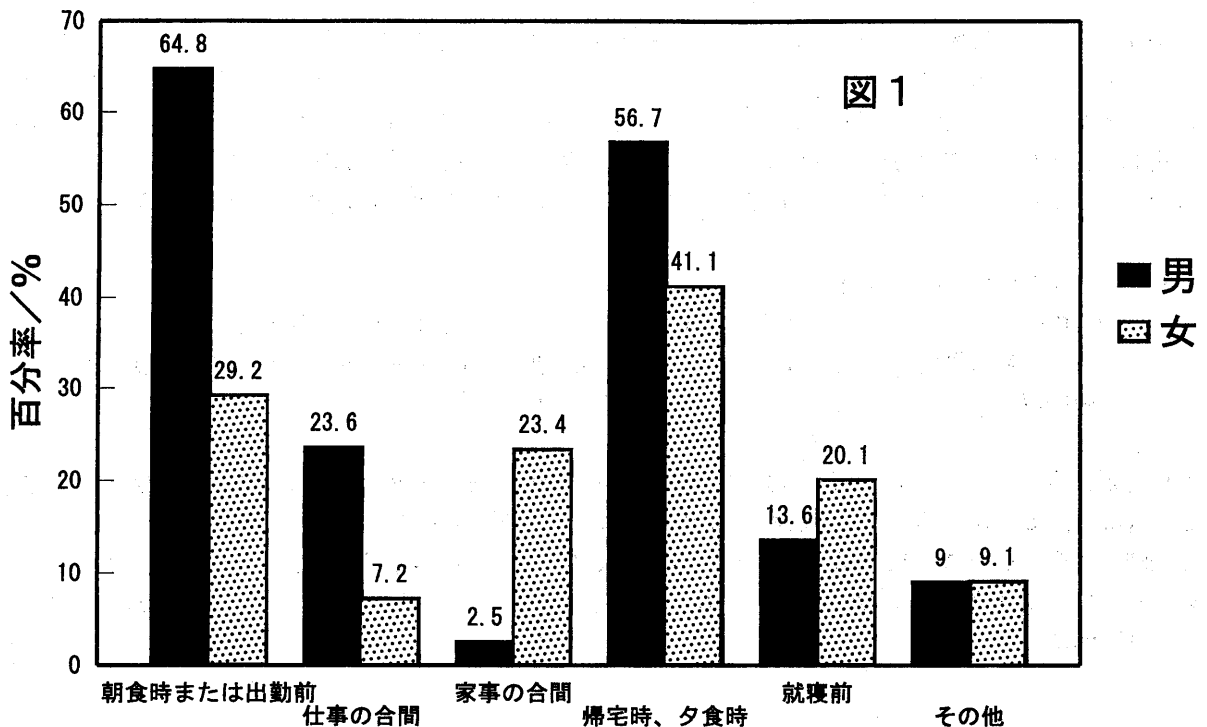
[ラジオ]

1 30分以下	35.5%	2 30分～1時間程度	20.6%	3 1～2時間程度	7.4%
4 2～3時間程度	3.7%	5 3時間以上	3.9%	6 ラジオは聞かない	26.7%

この結果から宮崎における1人平均のラジオ接触時間を割り出すと39.2分となり、新聞よりも4.8分多い。裏返せば新聞の閲読時間をもっとも少ない。録画・録音装置を用いない限り、その場で消えていく電波媒体にくらべ、機械操作も装置もいらない新聞は、手軽に何度でも読み返すことができ、保存も簡単にできる。記録性・一覧性・保存性に有利な活字媒体を単純な接触時間という次元だけで比較するのは多少の無理を感じないわけではないが、新聞の将来を考えるうえでは無視できないデータと言える。

問8 新聞閲読の主な時間帯(複数回答)

1 朝食時または出勤前	46.5%	2 勤務先の仕事の合間	15.1%
3 家事の合間	13.1%	4 帰宅してから、または夕食時	48.7%
5 就寝前	16.9%	6 その他	9.0%

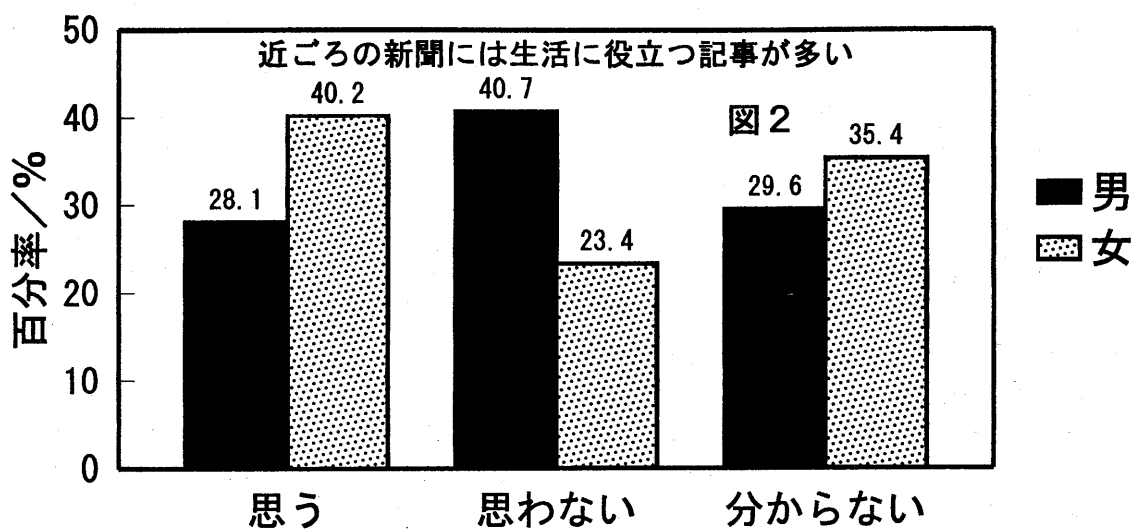


これを男女別にみると（図1）明らかに閲読時間の違いが分かる。男性は「朝食時または出勤前」に新聞を読む層が断然多く、女性は「家事の合間」「就寝前」にピークを示している。

第3章 [新聞への期待、信頼感]

問9 新聞に対する期待、信頼感

(イ) 毎日読むのが楽しみだ	1	思う	68.1%	2	思わない	20.3%	3	分からない	11.6%
(ロ) 新聞報道は信頼できる	1	思う	54.6%	2	思わない	20.3%	3	分からない	25.1%
(ハ) 新聞休刊日は寂しく感じる	1	思う	73.7%	2	思わない	19.8%	3	分からない	6.5%
(ニ) おおよそその世の中の動きは新聞でつかめる	1	思う	75.0%	2	思わない	15.6%	3	分からない	9.4%
(ホ) 新聞で知識や教養が深まる	1	思う	76.4%	2	思わない	11.7%	3	分からない	11.9%
(ヘ) 新聞の文章は分かりやすい	1	思う	55.6%	2	思わない	28.4%	3	分からない	16.0%
(ト) テレビ欄があるから新聞をとっている	1	思う	37.0%	2	思わない	52.4%	3	分からない	10.6%
(チ) 提供される情報量に比べ購読料は安い	1	思う	35.2%	2	思わない	42.8%	3	分からない	22.0%
(リ) 近ごろの新聞は広告が多すぎる	1	思う	53.9%	2	思わない	35.5%	3	分からない	10.6%
(ヌ) 近ごろの新聞はページ数が多すぎる	1	思う	14.7%	2	思わない	77.9%	3	分からない	7.4%
(ル) 新聞はあまり読者の要望に答えていない	1	思う	25.0%	2	思わない	37.5%	3	分からない	37.5%
(ヲ) 近ごろの新聞は生活に役立つ記事が多い	1	思う	41.1%	2	思わない	29.4%	3	分からない	29.5%



大半の読者は新聞を毎日読むのは楽しみで、休刊日になると寂しさを感じ、新聞で世の中の動きをつかみ、知識や教養の糧としている。しかし、新聞報道の「信頼性」について大筋では肯定的だが、やや陰りがみえ「あまり読者の要望に答えていない」という声も無視できない。中学卒あるいは高校程度の水準で理解できるはずの新聞文章も必ずしも分かりやすいとは言えなくなっている。注釈めきの「新語」や専門

用語、カタカナ（外来語）が氾濫しているせいか。「テレビ欄があるから新聞をとっている」とまでは思わないが、近ごろは広告が目立ち過ぎ、提供される情報量に比べ「購読料は高い」と感じている人が多い。ページ数の多いのは結構だけど、もう少し読者の要望に応える中身の充実と「生活に役立つ記事」を増やす努力を——この項目の回答を最大公約数的に総合すると、このような意見になるだろう。佳方小学・独善に対する注文は厳しい。なお「テレビ欄があるから新聞をとっている」とストレートに答えた層の男女比は6：4で女性が多い。同様に「近ごろの新聞は生活に役立つ記事が多い」の項目での男女の意識はまったく逆転し（図2）女性は肯定が多数を占めたのに対し、男性は否定が大きく上回った。

問10 新聞に期待している特性（複数回答）

1 正確で公平・公正な客観報道、真実・事実の報道	79.9%
2 時代の流れを的確にとらえた情報の提供	56.3%
3 迅速な報道	48.5%
4 国際的な視野に基づく報道	45.8%
5 趣味や教養を深める特集や企画	45.0%
6 人生に勇気を与え、心温まる明るいニュース	40.9%
7 福祉・医療などを含む生活情報	39.4%
8 社会の不正や不公平をただす姿勢	37.9%
9 地域の文化向上や経済発展に関する情報	37.0%
10 事件などの背景や歴史まで抑えた専門的・解説的記事	32.3%
11 ユーモア・風刺のきいた記事	30.8%
12 キメ細かい地域の話	26.4%
13 民主主義・言論の自由・人権を守る役割	21.8%
14 女性の地位向上に関する情報や報道	13.7%
15 世論を先導するオピニオン・リーダーの役割	10.0%
16 その他	2.4%
17 新聞に期待するものはない	1.7%

「正確で公平・公正な客観報道、真実・事実の報道」をトップに「キメ細かい地域の話」「民主主義・言論の自由・人権を守る役割」まで、新聞への期待は実に多岐にわたる。「人生に勇気を与え、心温まる明るいニュース」（「ユーモア・風刺のきいた記事」も含め）が上位にあるのは、昨今の暗いニュースばかりの紙面への抵抗かもしれない。「世論を先導するオピニオン・リーダーの役割」が下位にあるのは、いかに新聞が先導的役割を担っているとはいっても、リーダーシップをことさらに強調したり、説教調に傾けば「ごうまん」と受け止められることへの戒めか。「女性の地位向上に関する情報や報道」は、最近では第4回世界女性会議（北京）をはじめ、差別撤廃、雇用機会均等、育児・介護休暇制度など、さまざまな動きがマスコミでも取り上げられ、地域政策の重要課題としても脚光を浴びつつある分野だ。にもかかわらず低位の関心に留まっている。ちなみに男女比率は13.7：5.5で女性8.2ポイント上回っている。このほか女性の意識の方が男性をしのいだ項目は「福祉・医療などを含む生活情報」（26ポイント差）「趣味や教養を深める特集や企画」（13ポイント差）「人生に勇気を与え、心温まる明るいニュース」（8ポイント差）「ユーモア・風刺のきいた記事」（8ポイント差）「キメ細かい地域の話」（2ポイント差）であった。

問11 新聞に不満を感じる点（複数回答）

1 権力の腐敗や癒着、暴力など不正と戦う姿勢が足りない	29.1%
2 問題を提起するだけで、報道に一貫性や継続性が不足	27.9%
3 記事の取り上げ方が偏っている	27.4%

4	興味本位、事実をおおげさに表現する	24.7%
5	字が小さい。難解な漢字などに「よみがな」がない	22.8%
6	地元の記事や地域情報が少ない	19.8%
6	世論を喚起するキャンペーン記事や企画が少ない	19.8%
8	プライバシー、人権が守られていない	14.4%
9	正確さに欠ける	13.9%
9	カタカナ（外来語）が多すぎる	13.9%
11	内容が乏しく、きめ細かさに欠ける	13.4%
12	科学・学術に関する記事や解説が少ない	12.7%
13	読者の意見や声を反映していない	12.5%
14	新聞に不満を感じている点はない	8.8%
15	その他	4.6%

今日の新聞の姿勢や在り方への不満が鮮明に反映されている。「権力の腐敗や癒着、暴力など不正と戦う姿勢が足りない」「問題を提起するだけで、報道に一貫性や継続性が不足」「記事の取り上げ方が偏っている」「興味本位、事実をおおげさに表現する」の項目が上位に集まった。やはり読者は新聞に対して、生活者の立場から社会正義を貫く毅然とした態度、公正さ、冷静さや品性を求めている。「字が小さい。難解な漢字などに〈よみがな〉がない」「カタカナ（外来語）が多すぎる」という指摘は女性や高齢者に多かった。活字を大きくするなど、最近の新聞は以前よりも読み易くする工夫に力を注いでいるものの、読者はもっとキメ細かいサービスを望んでいるようだ。「地元の記事や地域情報が少ない」「世論を喚起するキャンペーン記事や企画が少ない」「プライバシー、人権が守られていない」にも関心が寄せられている。これは客観報道・不偏不党といった一般的な建前論の殻から脱して、緊張感に満ちた紙面展開への期待であり、新聞自体の個性や特色、地域傾斜が存分に打ち出されていないことに対する読者のいらだちとも受け止められる。

問12 通常、よく読む記事のジャンルの順位づけ（1位集中度のみ）

1	社会・世相・事件	23.2%	2	政治ニュース	16.1%	3	スポーツ	13.0%
4	地域の出来事	9.8%	5	国際ニュース	9.3%	6	お天気・気象	6.9%
7	一面コラム	6.8%	8	生活・暮らし	6.6%	9	経済・株式	5.8%
10	読者投稿	5.6%	11	娯楽	4.7%	12	流行・ファッション	4.4%
13	広告	3.4%	13	その他	3.4%	15	企画特集	3.2%
16	文化・文芸	2.7%	17	漫画	2.6%	18	連載記事	2.0%
19	人の動き・消息	1.5%	20	連載小説	1.2%	21	その他のコラム	1.0%
A	とくに順位はない	17.1%						

新聞の読み方にルールがあるわけではない。人それぞれの好みで読まれて当然である。同じ読者でもその日の気分や都合で読み方が異なることもある。この結果からは、新聞の読まれ方の多様性がうかがえる。いわゆる記事の「視聴率」ではない。そのなかで「社会・世相・事件」「政治ニュース」「スポーツ」への集中度が高いのは、世の中の動きの「瞬間風速」を新聞がよくつかんでいる、と読者が感じている表れだろう。男性の関心が高かったのは「政治ニュース」「経済・株式」「スポーツ」のみ。一方、女性の関心が男性を上回っている分野は「地域の出来事」「一面コラム」「広告」「漫画」「生活・暮らし」「流行・ファッション」「娯楽」「連載小説」「文化・文芸」「読者投稿」と多岐にわたり、女性に生活・文化・地域志向の強いことが裏付けられた。

問13 新聞閲読の際、主に関心を寄せている地域は（1位集中度のみ・複数回答）

1 宮崎	38.7%	2 全国	29.9%	3 九州	23.8%
4 世界	22.2%	5 アジア	18.3%	6 その他	0.1%
A とくに順位はない	19.8%				

地元宮崎への関心が高いのは当然だろう。九州全体、アジアへの目線がいささか低いように受け止められそうだが、これは記事量や紙面のインパクト次第で変化する。特集や企画によって読者の関心呼び覚ますことが可能である。男女ではわずかに順位に多少の違いがみられる。男性の関心は宮崎→九州→全国→世界→アジアであるのに対し、女性は全国→宮崎→九州→世界→アジアという順位を選んでいる。

問14 仕事のうえで新聞記事が役に立っているか

1 大いに役立っている	18.4%	2 時々役立っている	59.3%
3 あまり役立っていない	11.3%	4 全く役立っていない	0.3%
5 分からない	9.0%		

もし新聞が仕事や生活のうえで何の「役に立っていない」と実感している読者が増えているとしたら一大変である。役立っていればこそ新聞は存在理由を得、また購読者も何年にもわたって定期購読を続けられる。信頼関係の基本条件である。それにしても否定の声は10%を超えているのが気掛かりだ。男女ともに大差はないが、女性の方にやや否定的傾向がのぞいている。

問15 新聞は教養や知識を高めるのに役立っているか

1 大いに役立っている	24.0%	2 時々役立っている	60.8%
3 あまり役立っていない	8.9%	4 全く役立っていない	0.9%
5 分からない	4.9%		

問17にも関連する質問である。大多数の読者が、新聞に知的・教養主義的イメージを抱いている。だが「時々役立っている」というのは、まだ新聞のセンセーショナルリズムや品性を欠く報道姿勢への批判が込められているのかもしれない。男女別の有意差はみられなかった。

問16 新聞をスクラップ（切り抜き）しているか

1 日課にしている	2.4%	2 必要に応じてしている	41.7%
3 していない	55.8%		

これも問15とともに問17に関連する質問である。新聞のスクラップは、もっとも手軽な個人データベースとして重宝な存在となる。時々刻々の記事は断片的であっても蓄積されれば、有力な仕事上の情報源、専門知識の宝庫として役立つ。その有効性に着目して「必要に応じてしている」読者は4割を超えたが、過半数はわざわざハサミとノリを使うことまではしない。新聞は読み捨てられている。男女別の有意差はみられなかった。

問17 新聞は、学校教育や生涯教育の教材として活用されるべきか

1 大いに活用されるべきだ	43.9%
2 成人教育にはよいかもしいが、学校教育では慎重にすべきだ	25.5%
3 その必要はない	6.9%
4 分からない	22.0%
5 その他	1.6%

日本新聞協会が推進しているNIE (Newspaper in Education) 運動に即応して、新聞を「生きた教材」として生涯教育や学校教育の現場に活用することを念頭においた質問である。一般的には支持されているが「学校教育」の場での利用が慎重なのは、やはり「教科書として新聞」にはストレートな信頼がおけないのであろうか。しかし、新聞がジャーナリズムの本領を發揮し、信頼と品位が高まれば自ずから、教科書としての地位を獲得するに違いない。職業別では、教師の75.0%が「大いに活用されるべきだ」と積極的な態度を示している。これからの新聞づくりにとって参考になる結果といえよう。男女別での有意差はみられなかった。

第4章 [地方記事への評価、充実の必要性]

問18 購読している新聞の地方ニュース、地域に関する出来事や話題、情報提供は十分か

1 質・量ともに不足している	31.8%	2 質はよいが、量に不満	7.5%
3 量は十分だが質に不満	22.0%	4 質・量ともに現状で十分	22.1%
4 地方記事の必要を感じない	3.3%	5 分からない	13.2%

地域ニュースの定義や評価に関する論議は別の機会に譲るが、読者がどのような気持ちで地域発の記事を受け止めているかを知ることができる。「質・量ともに現状で十分」と満足している層は2割強に留まり、6割強が何らかの不満を訴えている。その内訳は「質・量ともに不足している」「量は十分だが質に不満」と厳しい注文が5割を超えた。「地方の時代」を迎えた今日、地域づくりに関する質・量ともに充実した情報が求められている証しであろう。職業で平均より高いポイントで「質・量ともに不足」と答えたのは、農水産業(+11.1ポイント)、会社員専門職(+8.2ポイント)、教員(+6.0ポイント)会社員従業員(+4.7ポイント)であった。

問19 どのような地方記事が不足しているか(複数回答)

1 イベント・催し物の紹介	49.8%
2 生活・暮らしにかかわる情報	49.8%
3 地元の政治の動向	41.9%
4 地域の経済発展に関する情報	40.0%
5 医療・福祉に関する情報	38.2%
6 地域文化・文芸に関する記事・論評	38.0%
7 まちづくりに関する企画	35.5%
8 隣県など他の地域の動向	24.8%
9 地域の教育に関するニュース	24.3%
10 読者参加の企画	19.4%
11 県外で活躍している人の消息	17.6%
12 評論、コラム	17.2%
13 農漁業振興に関する情報	13.5%
14 その他	2.5%

いずれも地方記事として欠かせない重要なものである。この結果を優先順位と混同してはならない。あくまで現在閲読中の新聞に対する読者の実感を反映したものと受け止めるべきである。例えば「読者参加の企画」「評論、コラム」が下位にあるからと言って不必要と断じることはできない。むしろ、これからの地域ジャーナリズムのなかで一層重要な位置づけがなされ、工夫をこらし、力を注ぐ必要のある項目と解釈する方が妥当だろう。ことに「農漁業振興に関する情報」のニーズが農水産業関係者以外は軒並み低い。農業を重点施策とし農業生産地に最も近い地域での結果だけに気になるところである。男女別にみる

と、男性は「地元の政治の動向」「地域の経済発展に関する情報」を強く求め、女性は「イベント・催し物の紹介」「生活・暮らしにかかわる情報」「医療・福祉に関する情報」をより強く望んでいる。職業別に寄せられた関心のピークは次の通り。会社員従業員は「イベント、地元政治」、会社員専門職は「暮らし、地元経済」、公務員は「地元経済」、商工自営は「地元政治、地元経済、暮らし、福祉」、自由業・管理職は「県外で活躍している人の消息、地元経済」、教職員は「福祉、教育」、主婦は「暮らし、福祉、イベント」、学生は「イベント、福祉」。

第5章 [宮崎日日新聞の読者へ]

問20 宮崎日日新聞を、郷土の意見を代表する新聞として信頼しているか

1 大いに信頼している	16.4%	2 まあ信頼している	55.3%
3 なんとも言えない	21.1%	4 それほど信頼していない	5.7%
5 全く信頼していない	1.4%		

創刊55周年を迎える郷土紙として、これまで培った実績と現在の紙面づくり、報道姿勢、事業展開などが相当の信頼を得ていることがうかがえる。男女別、各年齢層ともこの傾向に大きな差はみられないが、強いて言うなら10代後半と30代、40代に若干の否定的傾向が現れている。職業別でも全般的に信頼感が基調になっているもの商工自営業、学生、公務員、会社員従業員、会社員専門職の否定意見が目立つ。

因みに、宮崎日日新聞の社是を紹介する。

- 1、言論の自由を守り、真実、公正な報道によって、郷土と国の平和、発展を期する
- 1、不偏不党を堅持し、責任と品位をもってその使命を果たす
- 1、県代表紙の公共性に立ち、各分野を通じて住民福祉、豊かな地域づくりに寄与する

問21 宮崎日日新聞に親しみを感じているか

1 大いに感じている	21.3%	2 まあ感じている	61.2%
3 なんとも言えない	8.9%	4 それほど感じていない	6.7%
5 全く感じていない	1.8%		

「信頼」と「親しみ」は似ているようだが微妙に感覚のニュアンスが違う。前問では71.7%の信頼が、ここでは82.5%とプラス・イメージが一段と高くなっている。その鍵は「なんとも言えない」層の差がにぎっている。いずれにしても、地元紙としての宮崎日日新聞に寄せられている読者の信頼度、親しみは高感度と言えよう。年齢別にみると「大いに親しみを感じている」と積極的に答えているのが、60代（+19.2ポイント）と20代後半（+8.3ポイント）、これに対し「それほど親しみを感じていない」層が10ポイント近くあったのが10代後半と30代、40代にみられた。職業別に「親しみを感じている」層は主婦、教職員、会社員従業員で、若干「親しみを感じていない」傾向が目立つのは学生、自由業・管理職、会社員専門職であった。男女別の有意差は認められなかった。

問22 宮崎日日新聞で、よく読む紙面やコラム、特集記事（複数回答）

1 テレビ・ラジオ面	42.6%	2 一面（政治など）	37.9%
3 スポーツ面	33.3%	4 くろしお（一面コラム）	32.3%
5 窓（投稿欄）	28.7%	6 天気・気象予報	28.4%
7 社会面	25.9%	8 今日のツキ運・運勢	22.3%
9 社説	19.6%	10 経済面	17.8%

11 文化面	12.9%	12 ろんだん	12.5%
12 茶の間	12.5%	14 暮らし	11.7%
15 情報プラザ	11.2%		
16 ことば巡礼	8.8%	17 みやざき戦後50年	8.6%
18 私たちの学校	6.5%	19 XYZ倶楽部	6.4%
20 カラー特集	6.3%	21 男のメッセージ	6.1%
22 すーぱーワイド	5.9%	23 囲碁・将棋	5.1%
24 株式	4.9%	25 宮日移動編集局	4.4%
25 宮日戯評	4.4%	27 ひょうすんぼ	4.1%
28 連載小説	3.7%	29 歩廊	3.7%
30 その他	3.4%	31 歌句のふれあい	2.9%
32 古希への道	2.0%		

「山高きがゆえに貴からず」のたとえのように、記事の重要性と閲読率の高低は必ずしも一致するものではない。この場合は2ヶ台の記事は総じて一般に広く読まれ、その他は一定の固定読者が「深く」「楽しみに」読んでいる記事と解釈すべきだろう。読者の価値観、関心の領域は実に多様である。ときには「気まぐれ」の感すらみえるものだ。限られた紙面に、これだけの多様性を盛り込めるのは、それなりの工夫と試行錯誤の結果と言える。同時にこれ以上の多面化は、かえって読者の印象を拡散させるリスクを負うことになりはしないか。かと言って集中・傾斜を強調すれば、紙面の面白みやバラエティーを失うことになる。日刊紙の紙面評価は、まさしく時々刻々変動するものである。文字どおり絶え間ない検証と改革意識が内にあり、同時に読者のニーズを細大もらさず受信するアンテナとそれを処理できるソフトが機能していなければならない。

第6章 [自由回答]

問23 日ごろから新聞に抱いている感想・意見

文末に記載している記述は、本調査のフリー・アンサー欄に記入された回答を原文どおり紹介するものである。年代別に分類したが、これを男女別、職業別、購読紙別、あるいは他の属性ごとに並べ変えても、大変興味深い分析ができる。とりわけ自由回答には、数字には現れない「ナマの声」が直接うかがえる。

[まとめ]

宮崎における地域ジャーナリズム研究の基礎資料を得るため、1994年11月から1995年2月にかけて新聞読者500人を対象とする意識調査を行った。回収率は84.6%であった。その結果、地域住民にとって新聞は日常生活に欠かせぬ存在であることが明らかになった。しかし、新聞閲読時間は平均34.4分で全国平均より6.7分少ない。郷土紙・宮崎日日新聞に寄せる信頼度・親しみはともに大きく、男女、年齢、職業別いずれも根強い浸透力と潜在的影響力をもっていることが裏付けられた。とはいえ、最近のマスコミ、ジャーナリズムの姿勢や在り方に対する厳しい注文も随所にみられ、報道の一貫性、権力の腐敗や不正などに対する批判精神、正義感の欠如を指摘する声も高かった。地域ニュースの取り上げ方にしても、単なるイベント紹介、事実報道から一步踏み込んだ地域の問題の掘り起こし、「まちづくり」などに役立つ、きめ細かい記事や情報への期待や注文が寄せられている。また新聞を教材として教育の現場に活用する動きにも熱い目が注がれている。「事実の報道・真実を追求」する報道から「ニュースの解説・論評」する言論といった従来の枠組に留まらず、多様なニーズに応えながらの飛躍が、これからの新聞には求められている。ここに21世紀の「地域の時代」を拓くにふさわしい「地域ジャーナリズム」

の可能性が展望できる。

なお、本稿をまとめる途中で、思わぬマシン・トラブルが発生、年齢・職業別等のクロス・データの入手が困難となり、分析と考察に厚みを欠く結果を招いた。数量化Ⅱ類等の解析は後日に譲る。

〔おわりに〕

本研究は、冒頭で述べたように宮崎学術振興財団の研究助成によって実現できたものである。地域社会に開かれ、その向上・発展に役立つ宮崎公立大学にふさわしいテーマとして、本研究を選んだつもりである。その趣旨に沿えたかどうか。先学諸氏の建設的ご批判を仰げれば幸いである。本稿はあくまで概要報告である。後日、これらのデータを基にさまざまな解析を施し、詳細に研究を深めていきたい。

調査研究にあたり、各段階で多くの方々のご協力を得ている。研究のコンセプト、全体構成ならびに調査表の設計については、本学の菊住昌一教授、山本展男教授、川瀬隆千講師、宮崎日日新聞社の三宅理一郎取締役・編集局長、南村正明報道部長ほかの貴重な意見や示唆をいただいた。アンケート配布に当たって本学・報道部を中心とする学生諸君の協力で、この種の調査では珍しい高回収率が達成できた。自由回答の抽出は、成迫弘君はじめローカル・ジャーナリズム論演習の学生諸君が手伝ってくれた。とくにコンピューターによる複雑な集計、分類には本学の田縁正治助教授の指導のもと、北迫久美子、伊藤環の両君に幾度となく助けていただいた。以上の方々に厚くお礼を申し上げる。

本研究をさらに拡大発展させ、テレビ、ラジオ等も含めた分析・検討を進めれば、一層「地域メディア」の構造が明らかになるだろう。これを他地域のローカルジャーナリズムとの比較研究へと広げていけば、未開拓の研究領域だけに、新たな発見が期待できる。後日、機会があれば是非、取り組みたい。

〔自由回答〕 1性別 2年代 3職業 4宮崎居住年数 5購読紙 6回答内容

1 男 2 10代 3 学生 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞
6 ある先生から言われて新聞を読んでいると、常用漢字が出るから憶えることができる。・政治には少し興味があるから、もう少し一面が発展してほしい。

1 女 2 10代 3 学生 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞
6 ラジオ欄の方も“今日の聞きどころ”みたいのを作って大きく取り上げてほしい。

1 女 2 10代 3 学生 4 10～20年未満 5 読売新聞
6 もっと大きな字で書いてほしいと思う。

1 女 2 10代 3 学生 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞
6 地方ニュースの充実を希望しています。

1 女 2 10代 3 学生 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞
6 広告が新聞の中に多すぎる。もう少し内容を増やした方がいいと思う。

1 女 2 10代 3 学生 4 10～20年未満 5 朝日新聞
6 もっと分かりやすくなれば、もっと若い人達にも読まれると思う。

1 女 2 10代 3 学生 4 10～20年未満 5 読売新聞
6 毎日毎日あんなにたくさんの情報を掲載しているのですごいと思う。毎朝新聞を見ないと落ち着かない。

1 女 2 10代 3 学生 4 5～10年未満 5 宮崎日日新聞

6 地元のことでなく隣県のことも取り上げてほしい。

1 男 2 20代 3 会社員 4 20～30年未満 5 宮崎日日新聞

6 少なくとも三紙くらいを並べてみないと、記事内容の真相が見えない。テレビならチャンネルを変えれば済むが、新聞ではなかなか難しく手間が多い。真相が見えづらい理由はいくつかあるように思える。(1) ニュースソースが異なるため、記事内容に差異が出る。(2) 文章力に差があるために、それぞれの記事内容が相異なっているように思われる。(3) 記者の感性の差。(4) 各社の政治的スタンスや記事の重要度への認識にズレがある。(5) 通信社の配信記事を単純に載せるか、足で稼いだかの違い... e t c。不可抗力である(1)(3)(4)はともかく、(2)(5)は許し難い。記者の能力にも疑問がある。

1 男 2 20代 3 学生 4 1年未満 5 宮崎日日新聞

6 プライバシーの侵害が多い。

1 男 2 20代 3 学生 4 1年未満 5 朝日新聞

6 大阪出身の者ですが、夕刊が無いのでさびしい。朝日新聞の木曜日に科学面が載っていましたが、こちらはそれもないので情報が入ってこない。

1 男 2 20代 3 学生 4 1年未満 5 宮崎日日新聞

6 問題を提起するだけで、その後の情報がとても少ないと思う。その時一回限りではなく、しっかりとその後も追求してほしい。

1 男 2 20代 3 学生 4 1年未満 5 読売新聞

6 政治、国際、経済関係のニュースは、専門用語が多く、とっつきにくい。

1 男 2 20代 3 公務員 4 20～30年未満 5 宮崎日日新聞・朝日新聞

・夕刊デイリー

6 ここ数年で休刊日が増えてきたが(仕方のないことと納得はしている)一日遅れの記事を読むとき、一日以上の遅れを感じる感覚がある。

1 男 2 20代 3 学生 4 1～5年未満 5 読売新聞

6 新聞は客観的に報道すべきであって独自の意見や考え方は持つてはいけないと思う。

1 女 2 20代 3 会社員 4 10～20年未満 5 朝日新聞

6 勧誘がしつこすぎたり、悪質すぎたり(特に宮日と読売)するので改善してほしい。

1 女 2 20代 3 会社員 4 1～5年未満 5 宮崎日日新聞

6 新聞代を上げないでほしい。

1 女 2 20代 3 公務員 4 10～20年未満 5 朝日新聞

6 情報としては、とても良い。もっと分かりやすく、読みやすいように作ってくれたらうれしいです。

1 女 2 20代 3 レポーター 4 1～5年未満 5 宮崎日日新聞

6 コマーシャル、広告欄は、紙面に載せるときに、審査してほしいですね。たまに、信用できそうな欄があり、それが多いと新聞社そのものも信用できないような気になります。

1 女 2 20代 3 学生 4 1～5年未満 5 聖教新聞

6 事実を伝えるのが新聞の役目だけれども、人の生き方、考え方に力を与えるような人間を作るような、そういう心に訴える記事、内容がもっと増えればいいと思う。

1 女 2 20代 3 学生 4 1～5年未満 5 朝日新聞

6 日本の新聞では、欧米の新聞と比べ、世論等への影響が小さいと思う。・新聞が国民の意識をリードするようなものになってほしい。・新聞は、他のマスメディアよりも情報を伝達する時間がかかるが、新聞には、見たり、聞いたりすることの良さと同じように、読むという良さがある。

1 女 2 20代 3 学生 4 20～30年未満 5 宮崎日日新聞

6 字が読みづらい。(もう少し漢字の振り仮名がほしい)

1 女 2 20代 3 学生 4 1～5年未満 5 朝日新聞

6 ・時間があれば新聞二種類以上買って読みたいのですが、現在は今とっている新聞ですら読みきれず斜め読みの日々です。・政治に対する興味が失われてしまい、政治記事を読むのがだんだん嫌になってきました。

1 女 2 20代 3 教職員 4 20～30年未満 5 宮崎日日新聞・朝日新聞

6 地方紙は、情報の提供が数日遅れることがある。・歴史的な史跡、遺跡などの発見についてのその後の経過がわからないことが多い。しかし、多大なる情報を新聞から得ているという事も事実で、時には、一度にたくさんの情報を得ることができ非常に助かっている。

1 女 2 20代 3 その他 4 20～30年未満 5 宮崎日日新聞

6 政治、経済など普通に人にわかりやすくしてほしいと思います。

1 男 2 30代 3 会社員 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞

6 新聞購読者の幅(年齢層)が非常に狭く、中・高年層に限られているような気がする。もっと若い世代にも読んでもらえるような記事の選択やレイアウト等を考えていくべきではないだろうか。

1 男 2 30代 3 会社員 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞・聖教新聞

・公明新聞

6 新聞は現状を報告する新聞の役割があると思います。(公平に!)私は学会員(別面)ですが、何故もっと現実は現実として報道していただけないのかなあと考えております。例えば、阪神大震災にしても、一億円の義援金。まさきにヘリコプターを廻して食料を運んだ事。会館を地域の方に開放して医者にあたっている事。バイク隊として、九州から800名のボランティアが現地に食料を運んだ事。良い事は、現実は現実として、どんどん報道してほしいと願っています。以上です。

1 男 2 30代 3 公務員 4 30年以上 5 宮崎日日新聞・読売新聞

6 (宮崎日日新聞について)誤った記事の訂正が載らない日が無い。社説寸評についても、意味不明な文章が多い。作者、記者の能力を疑う。

1 男 2 30代 3 公務員 4 30年以上 5 宮崎日日新聞

6 宮崎県民の文化、教養の程度は低い。・宮日の紙面の劣悪さは、あたかも三流週刊誌、イエロー紙のごときものがある。・地方紙の県民に及ぼす文化的影響に思い至ったとき、私は愕然とした。

1 男 2 30代 3 公務員 4 30年以上 5 宮崎日日新聞
6 自分が詳しくないことはよくわからないが、自分が詳しいことについて明らかにおかしいと思う記事が時々あるので他の記事も信用しかねることがある。よく吟味して下さい。

1 男 2 30代 3 会社員 4 30年以上 5 宮崎日日新聞・日本農業新聞
6 趣味や教養を深める企画の質をよくすること。・スポーツ選手の談話など、全国紙とまったく同じだったりする場合が多々あるので独自の取材を希望する。・記事の量は適度だと思うが、質の向上を期待したい。

1 男 2 30代 3 公務員 4 30年以上 5 宮崎日日新聞・西日本新聞
6 共同通信の配信記事など、同一のものが多く見られる。各紙、独自性を発揮してほしい。

1 男 2 30代 3 教職員 4 5～10年未満 5 朝日新聞
6 新聞は貴重な情報源だと思うし、テレビ、ラジオのニュースでは理解できないこと、世の中の動きをつかむにはなくてはならないものだと思う。特に、日本固有の宅配制度は有り難いと思う。

1 男 2 30代 3 公務員 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞
6 地元紙についてはおおいに期待し、盛り立てていかなければいけないと考えているが、それが宮日である必要は必ずしもない。宮日にはもっと大人になっていただき、批判やうがった見方ばかりでなく、より建設的、前向きな記事の掲載を期待する。このような意見がおそらく多数であると思われるので、宮日にもぜひ伝えていただきたい。

1 女 2 30代 3 教職員 4 1年未満 5 毎日新聞
6 現代社会と将来についてもっと考えさせてくれるような記事がほしい。

1 女 2 30代 3 自由業(管理職) 4 30年以上 5 宮崎日日新聞
6 近頃は情報収集や国内外の情報は、新聞よりTVから得る方が多い。TVの場合キャスターの切り口で同じ事件や記事の見方が変わっておもしろいが、新聞だと客観的すぎてつまらない。

1 女 2 30代 3 教職員 4 30年以上 5 宮崎日日新聞
6 広告を記載しているスポンサーへの不都合な事件、ニュースなどがあっても、事実通りに記載されずに、なんでもない事件に取り扱われたり、といったスポンサーへの顔色を伺う体質を変えるべきだ。

1 女 2 30代 3 公務員 4 5～10年未満 5 朝日新聞
6 最近いじめの記事が多い。自殺というショッキングな事件が報道の発端となっていると思う。今秋「人間失格」が学校内部のいじめを取り上げていたが、新聞も事件が起こる前に何らかの発信が出来なかったのか。これから福祉環境など、人間が直面しないと痛みがわからない問題が数多くでてくると思う。新聞にはこのクッション役をつとめてほしい。

1 女 2 30代 3 主婦 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞
6 本当は、読売新聞の方が全国ニュースなどがわかるし好きなのですが、地域のことが知りたくて宮日新聞を購読しています。一つに新聞に両方期待することは無理なので、それぞれ自分が欲する記事を選べばいいと思います。なぜ地域のことが知りたいかというと、子供たちといろいろなイベントに参加したいからで深い意味はありません。

1 男 2 40代 3 会社員 4 30年以上 5 宮崎日日新聞・日本経済新聞
6 記事に筆者の主観が入る時があるが、あくまでも公平な立場ということをお忘れなさい。

1 男 2 40代 3 教職員 4 10～20年未満 5 朝日新聞
6 あまりに八方美人的に全ての人のニーズにこたえようとするあまり、方向性が定まらないようである。昔の新聞のように一言居士的なものがあってよいのでは。

1 男 2 40代 3 会社員 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞・毎日新聞
6 社会的な使命感も結構だが、鼻につく時がある。・表現の自由がペンの暴力となる危険性について一考がほしい。・特殊意識（文化人としての）も如何なものでしょうか。

1 男 2 40代 3 公務員 4 30年以上 5 読売新聞
6 新聞記事を読むときには、何社か比較して読むことにしている。同じ事柄でも、正反対の取り上げ方があり、一社だけを信用して理解することは危険である。そういう視点で見ている。

1 男 2 40代 3 会社員 4 10～20年未満 5 朝日新聞・聖教新聞
6 先日、読売新聞が、新しい憲法法案を発表したが、真に憲法議論をする一石を投じてそれなりに意味のあることだと思った。しかし、あくまでも独立、中立の立場を逸脱することのないよう新聞人に希望したい。

1 男 2 40代 3 自由業（管理職） 4 5～10年未満 5 宮崎日日・朝日・日経・西日本
6 テレビ、週刊誌を中心に日本人の個性を疑われるような報道姿勢（記事）が氾濫している中で、ジャーナリストとしてのスタンスやプライドを感じさせてくれる紙面づくりを心掛けてほしい。

1 女 2 40代 3 主婦 4 30年以上 5 宮崎日日新聞
6 新聞は他のテレビやラジオに比較するとどうしても速報という点では劣っています。しかし、後でじっくり読みそしてゆっくり考えるという点では何にも勝っています。そして最近気がかりなのはプライバシーと公表の差です。テレビのワイドショーで連日、母子殺人がこれでもかこれでもかと報道され観ている側も本当にここまでしていいのだろうかという思いで観ていました。殺された人は何の反論もできないのに重箱の隅をほじくるような事を報道します。新聞はまだここまでのプライバシーの侵害はないように思います。でも徐々に表れているように思う。

1 女 2 40代 3 会社員 4 30年以上 5 宮崎日日新聞
6 地元紙は、地域に住むからには読んでいなければ不安であるが、四大紙に比べ内容に不安を感じる。中央の動きをもっと正確に流してほしい。

1 女 2 40代 3 会社員 4 20～30年未満 5 宮崎日日新聞・読売新聞
6 規格（現在サイズ）をもう少しコンパクトにして持ちやすく、読みやすく今までの固定観念を捨て斬新な規格の新聞になったら家庭の中等での新聞もゴミとなることも少なからうと思います。

1 女 2 40代 3 会社員 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞
6 新聞に限らず、マスコミ全般に人権意識が乏しいと思っている。「文は人なり」というけれど、コラムを読んでいても無意識な偏見、差別意識が表れていて怒りを覚えるときがある。友人が、投稿した折りに一部分を勝手に変えられたと怒っていたが、そういう無神経さが存在しているのは確かだと思うし、追求すべきところで変に自己規制し、結果的には抑圧する側に力を貸すことになっている面があると思う。

1 女 2 40代 3 主婦 4 30年以上 5 宮崎日日新聞・朝日新聞
6 家事、生活、文芸に対する記事をもっと充実させて、毎日楽しみに開けるような新聞を希望します。

1 男 2 50代 3 公務員 4 20～30年未満 5 宮崎日日新聞・読売新聞
6 事実を報道することは正しいが、一部だけを見て全体を見ない傾向があること。例えば、原子力発電の問題については反対の立場に偏ること。広く、賛否両論を詳細に提示し、読者の問題意識を高める工夫をするなどできないものか。・社説に主体性を持つこと（特に宮日新聞に要望）。単なる批判、評論でなく、独自の意識展開を示してほしい。

1 男 2 50代 3 会社員 4 30年以上 5 宮崎日日新聞
6 地方ニュースを詳しく（もう少し）。

1 男 2 50代 3 教職員 4 30年以上 5 毎日新聞
6 読者の意見はできるだけ違った多くの意見を載せてほしい。

1 女 2 50代 3 会社員 4 1年未満 5 宮崎日日新聞・朝日新聞
6 ニュースの伝達の速さはテレビ、ラジオには負けます。新聞はそれを補う異なった報道に力を入れて欲しい。より詳しく又はニュースの背景、裏側など地方紙のシリーズ特集などは良いと思う。

1 女 2 50代 3 主婦 4 1年未満 5 読売新聞
6 とにかく広告の量が多いと思う。・不在のため配達を中止（連絡して）も、料金にあまり差がない。これは不満に思うことの大きな一つ。

1 女 2 50代 3 主婦 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞
6 地域情報は詳しくすぎる位の気配りがあるが、マンネリズムしている紙面も多い。全国的・国際情報を益々濃密にして充実を計ってほしい。

1 女 2 50代 3 主婦 4 1～5年未満 5 朝日新聞
6 宮崎を永住の地と決めたとき、「文化は果つる地だよ」と忠告した友人があった。住んで一年、「夕刊がこない！」や「週刊誌が2～3日遅れる」ことにも驚いたが、それを平然と受けとめている市民感覚に大きなカルチャーショックを受けた。書店や新聞社など数回問い合わせ、親切な説明を受けたが、疑問はそのまま残る。新聞ニュースが丸一日近い空白。受信者としてニュースに対する感覚が多少ズレていくだろうと感じている。映像にはない活字のインパクトを地元新聞はなぜ活用しないのだろうか。三ヶ月間、地元新聞を読んだが回覧板を連想、ストップした。

1 女 2 50代 3 主婦 4 30年以上 5 朝日新聞
6 紙面に占める広告が多すぎる。チラシは見ないでポイ捨てで、紙や資源の無駄使いに心が痛む・正月の新聞の無駄。新年というだけで、なぜあんな無駄なおおげさなことをするのか。・朝日新聞は、教育現場への理解のなさの反面、取り上げ方が大きすぎる。

1 女 2 50代 3 主婦 4 10～20年未満 5 宮崎日日新聞・朝日新聞・英字新聞
6 字を大きくしてほしい。このアンケートの文字は大変見やすかった。気持ちよく回答させていただきました。・アレモコレモとせず、読みやすく楽しい記事にして下さい。ニーズも違うと思うので、特集を組んで変えるとかしてほしい。

1 男 2 60代 3 自由業(管理職) 4 30年以上 5 宮崎日日・朝日・読売・日経・産経
6 世界各国の姉妹都市づくり(行政側の努力は他県より劣る)、愛する宮日新聞のリーダーシップを期待する。時代を背負う青少年に希望を与えてほしい。・東に大海の資源、南に広大な農業地、日出ずる国、太陽の国の恩恵に感謝し、郷土のために汗を流す県民向上のために「ふれあいの場づくり」のための運動を郷土紙で育ててほしい。(県庁前のイベントは、県職員の往来がひどく目につき、周辺消費者にとっては悪評であるので、宮日主催で、高千穂通りを発信基地にしてほしい。)

1 男 2 60代 3 無職 4 1年未満 5 読売新聞
6 広告が多すぎて読みづらい。・全国紙は地域の情報(質、量)ともに少ない。・一面に記載するに及ばない記事をカラー写真付きで報道している。外国の一流紙と比べて何故そんなものが?

1 男 2 60代 3 農水産業 4 30年以上 5 宮崎日日新聞
6 私の所は郵便配達です。今時こんなことがあってよいのですか。すぐそこまで配達されておりますが昔のまま配達区なので、代金は高い上にちらしが入っていません。このままでは、テレビもあることだし、購読中止になると思います。

1 女 2 60代 3 主婦 4 30年以上 5 朝日新聞
6 記者の力量によることを痛感します。(一事件が起きたとき)新聞社の力量によって左右されることが多々あると思います。体制に迎合するかのようなことを発表したりして戦前に戻るような気がして恐ろしい時があります。